

様式第1号

会 議 録

| | |
|-----------|---|
| 会 議 の 名 称 | 所沢市子ども・子育て会議（令和6年度第3回） |
| 開 催 日 時 | 令和6年10月25日（金） 午前10時00分から午前11時40分まで |
| 開 催 場 所 | 市役所8階大会議室 |
| 出席者の氏名 | （会議録別表1）のとおり |
| 欠席者の氏名 | （会議録別表1）のとおり |
| 議 題 | 議事 （1）所沢市こども計画の素案について ① 前回会議からの変更点について（第2章・第4章） ② 前回会議からの追加点について（第3章） ③ 所沢市こども計画の名称について （2）所沢市LINEアカウント『こども・若者情報チャンネル』の若者の友だち増加策について |
| 会 議 資 料 | ・資料1：所沢市こども計画【素案】 ・資料2：所沢市LINEアカウント「こども・若者情報チャンネル」の若者の友だち獲得策の検討 ・補足資料：所沢市こども計画素案の補足 |
| 担 当 部 課 名 | こども未来部 市来部長、小池次長 こども政策課 田中課長、中村主幹、高橋主査、川名主査、木下主査、分部主任、奥主事 こども支援課 田井課長 こども福祉課 加賀谷課長 青少年課 榎本課長 保育幼稚園課 青木課長、東主幹 こども家庭センター 山下参事、美甘主幹、松井センター長（事務局）こども未来部こども政策課 電話 04-2998-9415 |
| コンサル | 株式会社サーベイリサーチセンター：水谷、宮口 |

会議録

(会議録別表 1)

所沢市子ども・子育て会議委員会名簿

| | 氏名 | 出欠席状況 | 選出母体等 |
|----|--------|-------|--------------------|
| 1 | 城崎 理恵 | 出席 | 市民公募 |
| 2 | 石川 美穂 | 出席 | 市民公募 |
| 3 | 中村 まどか | 出席 | 市民公募 |
| 4 | 藤原 秀太 | 欠席 | 市民公募 |
| 5 | 野本 理恵 | 欠席 | 所沢商工会議所 |
| 6 | 渡辺 良雄 | 出席 | 所沢地区労働組合協議会 |
| 7 | 渡辺 由美子 | 欠席 | 所沢市私立幼稚園協会 |
| 8 | 川口 貴史 | 欠席 | 埼玉県保育協議会 |
| 9 | 後藤 泰秀 | 出席 | 地域型保育事業運営団体 |
| 10 | 小松 君恵 | 出席 | 地域子育て支援拠点事業運営団体 |
| 11 | 秋山 展子 | 出席 | 学校法人 秋草学園 秋草学園短期大学 |
| 12 | 仲田 智宏 | 出席 | 所沢市立小中学校校長会 |
| 13 | 秀島 寿子 | 欠席 | 所沢市民生委員・児童委員連合会 |
| 14 | 小沢 貞泰 | 欠席 | 子ども・子育て支援関係者 |
| 15 | 竹内 和代 | 出席 | 子ども・子育て支援関係者 |
| 16 | 田口 眞弓 | 出席 | 子ども・子育て支援関係者 |

| 発 言 者 | 審議の内容（審議経過・決定事項等） |
|-------|--|
| | <p>～ 開 会 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 欠席者等の報告 ■ 会議成立の報告 ■ 会長挨拶 ■ 傍聴者の確認（5名） ■ 資料の確認 <p>≪議題（1）「所沢市こども計画の素案について」≫ ～事務局より資料1及び補足資料に基づき説明～ ～事務局より「①前回会議からの変更点について（第2章・第4章）」の説明～</p> <p>委員 保育園の待機児童数は資料1の何ページに載っているか。</p> <p>事務局 （こども政策課） 25ページ、（5）保育の状況の②に掲載している。</p> <p>委員 学童クラブの待機児童数を載せていない理由は何か。</p> <p>事務局 （青少年課） 保育と学童では待機児童数の考え方が異なるため掲載していない。</p> <p>委員 産後ケア事業について、国で示されている事業の対象をみると、両親が所沢に住んでいて里帰りしている方は利用できないが、医療的ケア児の母親のみが利用することは可能となっている。医療的ケア児対策を所沢市として強化するのは素晴らしいが、出産後に母親だけ先に帰ってくるとなると、メンタル面や授乳のことで非常に疲労していく。実際に利用を希望しても母子一緒でないと利用できないことがあったが、産後うつの状態などを考えると、医療的ケア児の母親のみが事業を利用することは今後の子育てを考えると必要だと思う。具体的な量の見込みの検討はこれからだと思うが現時点の考えを聞きたい。ニーズは高いと思うので是非お願いしたい。</p> <p>事務局 （こども家庭センター） 里帰りの方と医療的ケア児の母親の利用について、所沢市では現在検討中だが、国の通知等を踏まえて考えたい。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>委員</p> | <p>資料 1 の 86 ページ⑥、17 と 18、交通安全について、小学校入学前の説明会で、朝の登校時のこどもの見守りを役員の保護者が行うことになっているらしく、毎日となると共働きの方には厳しいと思う。他の市区町村では最低賃金で人に依頼して見守り体制を確保しているところもある。所沢市ではそうしたことは可能か。</p> <p>また、危ない道が多いのに改善されない。通学路でも道を工事してこどもにとって安全な道路になるように整備してほしい</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>地域安全対策の充実については、担当部署が防犯交通安全課になる。いずれにしてもこどもの安全が第一と考えるので、それぞれの地域の安全も含め、担当課に伝えさせていただく。</p> |
| <p>委員</p> | <p>防犯交通安全課とはまた別に、道路交通の担当課にも共有していかないと、安全な道づくりはできないと思うので、子育ての視点と、防犯の視点と、道路交通の視点からの道づくりをお願いしたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>おっしゃる通り、1つの担当課だけでなく、全庁的、横断的に共有していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>うちの学区の場合、登校班の見守りは以前いた班では交代で担当していた。今のところでは毎日決まった母親が担当し、無理なときは交替しており、必ずしも役員が担当しているわけではない。ボランティアで地域のご年配の方や学校関係の方が見守りをしているが報酬はないと思うので、時給制にして手を挙げる方が増えれば危険な箇所についても見守りが強化できるのではないかと思う。</p> |
| <p>委員</p> | <p>小学校給食費の無償化について、来年度も引き続きあるのか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>給食費の無償化は計画とは別のところで、予算に関わることになるのでこの場では説明できない。</p> |
| <p>委員</p> | <p>139 ページ、放課後児童健全育成事業について、今年の待機児童が 500 人を超え大変な数になっている。今の見込み量だと待機児童が解消される状況ではないと思うが、いつ待機児童がなくなる予定になっているのか、見通しを示してほしい。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>(青少年課)</p> <p>139 ページの確保の内容は、年間 120 人程度定員を増やすことを目的としている。あくまでも施設の定員を増やすという観点の数値であり、施設整備以外で夏休みの一時預かり等でも対応することを考えており、令和 11 年度に待機児童が実質的にゼロになるように目指していく。</p> |
| <p>委員</p> | <p>令和 11 年度には解消できそうという話だが、この計画だとなかなか難しい状況ではないかと思う。市長の選挙公約に学童の待機児童をゼロにするということがあったと思うが、待機児童に関連する項目は市長と相談してつくったのか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(青少年課)</p> <p>この数字の内容や夏休みの一時預かり等の様々な方策について市長まで伝えている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>139 ページの放課後児童クラブについて、美原小学校の区域だと学校内に 2 つの児童クラブがあるにもかかわらず入れないという話や、低学年のうちに入れないと高学年からは入れない、親の仕事の状況により入れない場合もあるという話も聞く。児童クラブによってイベントにも差があり、外部のクラブに行く人もいるという。もっと多くの児童をみられる環境を作ってほしいため、児童クラブの指導員の不足が原因の一つであれば、ボランティアではなく最低賃金以上で志望者を募ったりして預かりをやってもらいたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(青少年課)</p> <p>美原地区について、来年度新たに児童クラブを設置する予定である。支援員については、所沢市は各児童クラブで定数を満たしており、不足しているわけではない。</p> |
| <p>委員</p> | <p>141 ページ、ファミリー・サポート・センター事業の確保の内容の考え方について、支援員の確保についての考えを聞きたい。この委員会でも何度か意見が出ていると思うが、支援員の人件費はボランティアなので最低賃金を下回ってもそれほど問題にならないというが、その状況で支援員が確保しにくいという意見も出ているので、今後の方策があれば教えてほしい。</p> <p>また、産後ドゥーラのような民間事業に対して助成をする自治体も</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>あると聞く。産後ドゥーラは時給 3000 円ほどだが高額でも利用せざるを得ないような家庭もあると聞いているので、ファミリー・サポート・センター支援員の確保と、産後ドゥーラのような民間事業への助成金等の考えはあるか聞きたい。</p> <p>(こども支援課)</p> <p>ファミリー・サポート・センター事業について、援助会員の賃金等についてはあくまでボランティアなので最低賃金と照らし合わせるの難しいと考える。近隣市町村の状況を見ると、ほとんどの市町村で当市と同額で実施しており、極端に当市が安いわけではない。ファミリー・サポート・センターの援助会員の確保については、現役世代では難しいためリタイアした方がメインになってしまうが、定年が延長されている状況から 60 歳代でも就労している方が増加していて確保が難しくなっていることは事実であり、高齢化が進んでいる。しかし、色々な機会を通じた周知活動や援助会員の研修の回数の増加等の努力をしているため、その辺を通じて増やしていきたいと考えている。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども家庭センター)</p> <p>産後ドゥーラ等民間事業の利用助成については、予算の関係があるのでここでは答えられないが、検討しながら進めたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>～事務局より「②前回会議からの追加点について(第3章)」説明～</p> <p>1点目、115 ページ、ヤングケアラーについて、11 月はケアラー月間となっているが、オレンジリボン運動、虐待防止月間でもある。オレンジリボン運動はかなり浸透しているが、ヤングケアラーについても同じような流れで考えているか、別の施策があるのか考えを聞きたい。</p> <p>2点目、119 ページ、若者の支援はこれからの課題になると思うが、居場所については青少年の延長線上で様々な居場所づくりがイメージできるが、経済的支援では産業振興課が担当窓口になっており、産業振興課の仕事がかなり多岐にわたる中、特に産業振興課の中に若者支援という意識的な窓口がないと難しいのではないかと思う。</p> <p>3点目、これは経過報告だが、虐待による一時預かりが増えている中で、長い間一時保護施設にいるお子さんで地元の小学校に通いたいという意見が多い。児童相談所に先生が来て勉強を教える仕組み等は充実しているが、そのような声に対して私たちは何ができるのか、県</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>の安全課と情報交換をしている。</p> <p>(こども家庭センター)</p> <p>ヤングケアラーについて、おっしゃるように 11 月の児童虐待防止の普及と併せて、ヤングケアラーについても普及啓発を行っていく。関係する機関に向けてヤングケアラー、児童虐待に関するチラシ配架やポスター掲示をしたり、11 月 19・20・21 日は市民ホールにてパネル展示やチラシ配架等のオレンジリボンキャンペーンと併せて、ヤングケアラーについても普及啓発を行っていく。22 日はこどもと福祉の未来館に場所を移して実施する。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>若者の就労・経済的支援については重要と捉えているため、産業振興課とも連携し進めていく他、社会福祉協議会と情報共有、連携して取り組みを進めていきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>こどもの経済的支援について、高校から大学に行くとなるとお金が必要で、高校生ともなると自分の家が裕福なのか貧困なのかわかるようになる。入学金の貸し付けや奨学金もあるが、高い教育を受けられるはずのこどもが進学できなかつたり、お金の面で希望する学問が学べないこともあると思うので、もっと市や県からの経済的支援を拡充してほしい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども支援課)</p> <p>本市としては、入学準備貸付金として高校、大学の費用の貸し付けの制度はあるが給付は今のところない。それとは別に、現役学生に対しては育英奨学金という県内でも珍しい給付型の奨学金を実施して援助をしている。2024 年度からは、こども家庭庁で高校や大学の受験費用を補助する制度が始まっており、所沢市ではまだ活用していないが、今後はそちらも視野に入れて検討していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>こどもたちのアンケートから居場所づくりに取り組むということだが、どういうところが居場所になるのか。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(青少年課)</p> <p>既存の居場所として、児童館は小・中・高校生のこどもが無料で利用できる。その他、中・高生の児童館利用促進のために遅めの時間帯を中・高生タイムとして設定している。</p> |

| | |
|------------------------|---|
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>その他の居場所として、地域のこども食堂、学習支援教室、プレイパークがある。民間の地域団体などが運営しており、現在、こういったこども食堂などの居場所については社会福祉協議会で立ち上げや運営資金の助成をしている。市としては、こういった居場所の運営団体を応援したい意向のある企業と団体を繋ぐ役割や、ホームページでの広報等、サポート的な支援をしている。引き続き社会福祉協議会との連携、役割分担をしながら推進したい。</p> <p>また、居場所そのものではないが、LINEのこども・若者情報チャンネルで、地域のボランティアやイベントの情報を配信している。情報配信により若者が地域とつながるきっかけづくりになることも居場所づくりの一環と考えており、こちらもさらに推進していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>切れ目のない支援のところで母子保健事業の充実があるが、前回の計画を踏襲するということで具体的には乳児健診について、こども家庭庁創設の際に1か月健診、5歳児健診の話があったと思う。5年間の計画なので、特に乳幼児期から学齢期にかけての連続した支援ということで大切な位置づけになると思う。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども家庭センター)</p> <p>1か月健診については埼玉県で取りまとめをする動きがあり注視している。5歳児健診はさまざまな課題の抽出や、他市の状況等を調べて進めている。</p> |
| <p>事務局 委員</p> | <p>～事務局より「③所沢市こども計画の名称について」の説明～</p> <p>名称の変更ということで、現在は「ところっこ」「すくすく」という言葉が使われているが、こども・若者という文言が基本理念に入ったことでややそぐわない感じがする。「ところっこ」は所沢市の放課後児童健全育成事業方針の中で、「市の宝であるすべてのこどもたちを意味する」となっており、若者が30代までだとするとここに若者まで入るのかどうか疑問に思った。</p> <p>幸せという言葉が基本理念に含まれているので「こども・若者幸せサポートプラン」などどうだろうか。</p> <p>ただ、ところっこという言葉はサポート事業でも使われているた</p> |

| | |
|-----------|--|
| <p>委員</p> | <p>め、ところっこには若者も含まれるということなら良いと思う。</p> <p>「ところっこ」という言葉について、私は最初に聞いたときには知らなかったが浸透しているのか。「ところっこ」が市の関連事業等で多用されているのであれば削除する必要はないと思う。「すくすく」「いきいき」「わくわく」は若い人は使わないと思うので、年齢的な意味でもそぐわない印象があり、言葉として古い感じがする気もする。</p> <p>こども・若者の計画なので「未来」という言葉はどうか。大きな未来、はばたく未来など。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「所沢こども・若者のための幸せサポート計画」というのはどうかと考えた。基本理念の言葉を取っている。こども・若者となったので、若者は必ず入れたほうが良いと思う。「ところっこ」というのは小学生や未就学には嬉しい言葉かもしれないが、中・高生だととっつき難くなってしまいそうな気がする。</p> |
| <p>委員</p> | <p>こども・若者という言葉が入ることには同意だが、「すくすく」でなく「わくわく」という言葉は大人も使っている。引っかかるのは「サポート」という言葉で、支援という意味だが若い母親に「行政に支援されたくない」と言われたこともあり、若者はサポートされたいと思っているのか疑問がある。昭和的かもしれないが、「わくわく」を使うことは良いのではないか。</p> |
| <p>会長</p> | <p>まだ皆さんたくさんご意見をお持ちかと思うので共有したいが、が、メールでこれ以降の意見を出していただき、事務局でまとめたいただければと思う。</p> <p>≪議題 2「所沢市LINEアカウント『こども・若者情報チャンネル』の若者の友達増加策について」≫ ～事務局より資料 2 に基づき説明～</p> |
| <p>委員</p> | <p>令和 4 年 12 月からこのアカウントがあったことを知らなかった。出産をしていない世代には浸透していないのではないかな。</p> <p>学校等との連携は良いと思うが、そこから漏れている人やこどもの親に周知するには、駅や図書館などよく利用される場所にQRコードと説明の入ったチラシを配架したり掲示するのが良いと思う。</p> <p>インセンティブについては、パパママカードのように、学生がまち</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>委員</p> | <p>でいろいろな割引等を受けられる特典を企業と提携したりして配布してはどうか。</p> <p>やはりあまり浸透していないと感じる。割合が少ない 20 代については図書館等の施設とタイアップして登録促進したり、クーポンをつける等のかたちもあると思ったが、若い人はクーポンだけ受け取ってブロックしてしまう人もいる。継続するためには、お金はかかると思うが AI のチャットボットを使うなどの方法もあるのではないかな。</p> <p>配信内容として、若者のキャリアアップ転職のため、配信で講習会について周知するのもどうか。東京都では婚活情報の配信などもやっている。</p> |
| <p>委員</p> | <p>健全な就労支援の情報配信が必要。地域は人手不足で高校生の就労も大手志向があるが、大手ではなかなかうまくいかない。就職のときに、闇バイトでない健全な就労支援、地元の優良な事業者と情報交換すると両方にとっていいのではないかな。</p> |
| <p>委員</p> | <p>LINE に図を入れてもらおうと自分の住んでいる地区がわかりやすいと思う。</p> <p>また、就労支援のお知らせについて、東京に行かないと大型イベントがないので所沢市の企業の就労に関するイベントを開いてはどうか。</p> <p>LINE に送られてくると嬉しいのは、市役所のイベント等の情報だと思う。積極的に配信することで、情報に気付いて行ってみたくなくなるのではないかな。</p> |
| <p>委員</p> | <p>登録割合の少ない若者世代に向けて 1 年かけて、どのような周知をしてきたのか知りたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>これまでの周知活動について、コロナ禍もあったので、少量入りのアルコールジェルのパッケージに LINE の情報を記載したものを施設に配置してきた。</p> |
| <p>委員</p> | <p>20 歳なら成人式で集まるときにチラシを配布したら人が増えるのではないかなと思った。</p> |
| <p>委員</p> | <p>20 代の人を利用する場所に目につくように、大学の通学で使用する</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>副会長</p> | <p>場所のエキナカ広告等、若者の通り道にあると、若者がゆっくり過ごしているときに読んでもらえるのではないか。</p> <p>登録者数を増やしたければ、登録することが社会への貢献になるというメッセージを強めてはどうかと考える。</p> <p>最近、ニュースでも闇バイト等の若者が犯罪に巻き込まれている話を聞くので、安易に登録すると何か貰えるというようなことより、もっと健全な、社会への貢献ということを前面に出して、ボランティアに参加してみないかというような発信をするほうが健全で、若者も登録してくれるのではないかと考える。</p> |
| <p>委員</p> | <p>若者たちが意見を出し合って、市を変えていけるような場所があれば、そのような場所を若者たちで盛り上げていくと参加率が上がるのではないかと。参考として、広島県の三原市で中学生の意見を参考に児童館をつくっている例があり、若者が求めている場所を自分たちで考えてつくっていくことで、まちへの愛着が湧いたり、本当に必要なものをつくれるというメリットがある。所沢市でもそうした取り組みをして、まちのランドマークにしてはどうか。遊ぶ場所も航空公園くらいしかなく都心の施設に出かけていくので、美術館や博物館などゆっくり楽しめる場所が市内にあると若者は嬉しいのではないかと。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>(こども政策課)</p> <p>市として新たな公共施設、居場所をつくるというのは、財政面もあるので今すぐ申し上げられないが、若者に単に登録をお願いするだけでなく、登録をして若者が意見を出すことで何かに反映するという姿をこちらが見せることができれば、登録意欲につながるのかなと気付きを得た。そういった視点を忘れずに取り組んでいきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>こどもと若者の居場所について、ところざわサクラタウンなど遊び場所はあると思われているかもしれないが、小さい子どもと一緒にだと気休め程度としか思えない。立川のグリーンスプリングスのようにこどもがもっと楽しめる場所づくりがないと若者は別のところに流出してしまう。秩父のおもちゃ美術館のような林業を生かした木のおもちゃのあそび場などをコラボで取り入れるなどして、LINEとか、事業で取り入れていけるといいのではないかと。</p> |
| <p>会長</p> | <p>以上で本日の審議はすべて終了した。委員の皆様には計画の名称と宿題を出してしまっただが、ぜひご意見をいただければと思う。</p> |

| | |
|------------|--|
| <p>事務局</p> | <p>事務局にお返しする。</p> <p>(こども政策課) 本日聞き取りできなかったご意見はメールで照会させていただく。</p> <p>■次回の案内 2月上旬予定。決定次第メールでご連絡する。</p> <p>■今後のスケジュール 12月にパブリックコメント実施 2月上旬に第4回子ども・子育て会議 3月下旬に計画策定 今回のご意見を反映した修正案をパブリックコメント前に共有。 パブリックコメント結果を踏まえた最終案を次回会議で提示する。 他、本日の会議資料と別に、各委員にオレンジリボンを配布させていただいた。会議の中でも話があったが、11月は児童虐待防止推進月間となっており、オレンジリボンキャンペーンのご案内をさせていただいている。本市でも、啓発活動の1つとして11月20日水曜日から22日金曜日まで、オレンジリボン配布やパネル展示を行う。また、保健センターにおいては11月1日から午後4時から5時15分までオレンジライトアップを行う。</p> <p>～ 閉 会 ～</p> |
|------------|--|